



吉備国際大学 公開講座のご案内

2011年もそろそろ秋が訪れ、様々なことに取り組むのに大変良い季節となってまいりました。吉備国際大学では、例年、多くの公開講座を行っており、たくさんの方々にご参加をいただいております。

つきましては、下記のとおり、現在受講者を募集している公開講座をご案内させていただきますので、ぜひ多くの皆さまにご参加頂きたく存じます。

今年度のテーマは「吉備国発 多文化をたのしむ」です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

開催日時	演 題	講 師	会 場
10月16日(日) 13:00~14:30	高齢者の転倒予防・介護予防講座 日常生活の中で出来る介護予防	保健医療福祉学部 講師 佐藤 三矢	朝霧温泉ゆ・ら・ら 送迎バスあり 備中高梁駅11時20分発
12月3日(土) 13:00~12:00 13:00~14:30	中国ビジネス講座 社会学から考える日中関係	社会学部 准教授 轡田 竜蔵	岡山駅前キャンパス 2号館4階
12月17日(土) 14:00~17:30	健康講座 スポーツ外傷・障害予防のための コンディショニング	保健医療福祉学部 教授 川上 照彦 理学療法士 横山 茂樹	吉備国際大学15号館 (保健福祉研究所)

☆詳しくは大学ホームページ(<http://kiui.jp/pc/>)をご覧ください。

◆申し込み方法

開催日の1週間前までに、電話、ファックスでお申し込みください。(電話受付時間は平日10:00~17:00) 大学ホームページからもお申し込みいただけます。なお、1回のみのお受講も可能です。(事前連絡が必要)

■問い合わせ 吉備国際大学庶務課 (☎29454・FAX27560)



成羽病院通信

~あなたの血管は大丈夫?~

アドバイザー・成羽病院 森 厚子 検査室長

(頸動脈エコー検査を受けて動脈硬化の程度を調べましょう)

食生活をはじめとする日常生活の変化や喫煙、運動不足、糖尿病患者の増加など、種々の原因で動脈硬化による病気が増加しています。

動脈硬化がおこると、血管の壁が肥厚して内腔が狭くなるため、心臓から送り出される血液が、全身の細い血管まで流れにくくなります。

全身の動脈硬化の程度は、頸動脈エコー検査でかなり推定できます。

動脈硬化をおこしやすい**高血圧・糖尿病・脂質異常症・喫煙者・肥満**などの人は、頸動脈エコー検査を受けて、脳梗塞や狭心症・心筋梗塞などの予防に役立てましょう。

動脈硬化危険因子



■問い合わせ 成羽病院事務局 (☎423111)



宇治本郷地区を望む



七十八 郷

「郷に入っては郷に従え」という諺があります。地名にも「郷」のつく地名が各地に見られます。「ゴウ」と読みだり「サト」と読みだりすることが多いと思います。平安時代に出された「和名類聚抄」(和名抄)という百科辞書などにも「郷」のつく地名がたくさん書かれています。

ます。例えば、「東郷」、「西郷」、「南郷」、「北郷」、「本郷」、「郷内」、「上郷」、「下郷」、「中郷」などです。高梁市内にも、宇治町本郷、成羽町布寄の本郷、備中町西油野の本郷や奥郷、平川の上郷、中郷、下郷、布賀の中郷、有漢町の郷などなど、いずれも古くから伝えられてきた「郷地名」なのです。「郷」は、古代七世紀の中頃(大化改新の頃)に地方の行政区画として「国一郡一里」(のちに郷と改称)の三階に分け、それぞれ国司、郡司、里長(郷長)の役人をおいて、統治させたのが始まりで、それがのちの荘園時代には、郡一郷一保の単位などで区画され、それが変質して中世から近世にかけて地方の区画単位として「郷村」などにならなむ地名として残ったもので、「歴史地名」の一つなのです。「なかでも「本郷」という地名は、本村、元村の意味で、古くからその地域で「最初に開けたところ」とか「役所などあつて地域で中心になった村」という意味を表す地名なのです。例えば、宇治町の「本郷」という地名は、その地域の歴史を物語る興味深い地名なのです。「宇治本郷」は吉備高原上の海拔三〇〇(五〇〇)の山間に開けた盆地状になったところで、成羽川の支流島木川上流で、吹屋往來の街道筋に

位置しています。古くには、下道郡穴田郷に属し(和名抄)、その後、備中国川上郡となり、慶長五年(一六〇〇)には、幕府領中野村(現・成羽町中野)、元和三年(一六一七)松山藩領中野村、そして元禄六年(一六九三)から再び幕府領となつていきます。この頃の「元禄検地」には「中野村本郷」として地名があげられています(備中村鑑)。この頃までに中野村の「本郷組」、大野路組、小野路組と分村していったのです。幕末から明治頃の「旧高田領取調帳」にも本郷組、倉敷支配処として三二一石余りの石高が書かれています。その後明治七年(一八七四)に本郷組、大野路組、小野路組が合併して再び中野村となり、明治三年(一八八九)に本郷組は宇治村に分離して「宇治村本郷」となっています。承久三年(一二二二)の乱の戦功で信州よりこの地へ新補地頭としてやってきた赤木氏が滝谷城(標高四八〇m)を築城し「本郷」に屋敷を構えていたと伝えられています。今でも本郷に土居の屋敷も残っています。また宇治本郷に鎮座する産土神清実八幡宮は、赤木氏と関係があったらしく、古くには現在の中野村地区の大氏神だったのか今では宇治本郷の氏神となつていて、中野では現在新しく中野神

社を氏神にしているのです。また江戸時代、中野村穴田市場(現・宇治町穴田)にある青龍山雲泉寺(曹洞宗)も穴田郷城主赤木氏を開基とする寺院と伝えられています。このように、現在の「宇治町本郷」は以前には中野村の中心だったことが分かります、そのまま歴史を語る「郷地名」として残っているのです。備中町平川に残る「郷地名」も、建武三年(一一三三)近江からやってきた平川氏が治めたという歴史が伝えられていますが、中世から近世にかけて「郷」の地区はその村の中心となった場所なのです。(文・松前俊洋さん)



本郷中組に鎮座する清実八幡宮